



## 羅針盤

# 誇るべき日本の介護技術 技能五輪で社会に発信

田中志子

全老健 副会長

技能五輪全国大会（技能五輪）は、国内の若い技能者たちが自ら磨いてきた技を披露し、その成果を正面から競い合う全国規模の大会である。製造業や建設、情報、サービスなど、現在では40を超える多様な職種が設定され、若い技能者が努力の成果を発揮する場として広く認知されている。大会の目的は、競技を通じて技能の価値を社会に広く伝え、技能尊重の気運を高めることであり、同時に次世代の人材育成にもつながっている。また、偶数年の大会は技能五輪国際大会の代表候補選手選考も兼ねており、日本の若手技能者が世界へ挑戦する重要なステップとなっている。

この技能五輪において、近年「介護職種」を新たに加える動きが本格化している。社会全体で高齢化が進み、介護や福祉の専門性の高さが注目される一方で、その技能が十分に可視化されず、「誰でもできる仕事」ととらえられてきた歴史がある。しかし、介護の現場では、身体介助の技術はもちろん、観察力、コミュニケーション力、状況判断力など、複雑で高度な専門技能が常に求められている。こうした背景から、厚生労働省は介護技能の価値を社会に広く示す必要性を踏まえ、2024年から検討会を設置し、技能五輪での介護職種導入を正式に検討することとなった。

その結果、2025年の技能五輪において介護職種がエキシビションとして初実施されることが決まり、2026年からは正式競技として追加される方向性が示された。2025年のエキシビションでは、入浴介助、食事介助、排泄介助という、日々の介護現場に根ざした技術が競技課題として設定されたと報告されている。全老

健からも代表者が出場し、全国の若い介護職が自らの技能を競い合う姿は、多くの関係者に新しい希望をもたらしたと聞いている。

私は、この介護職種の技能五輪参加が実現へ向かっていることを、心からうれしく、誇りに感じている。介護は、人の生活と尊厳を支える大切な専門技術である。しかし、その価値がこれまで十分に社会に伝わってこなかったことも事実である。やって当たり前、誰でもできる仕事と考えられていたのではないだろうか。技能五輪という公の舞台で介護が取り上げられることは、その価値を明確に可視化し、社会全体に「介護は日本の誇るべき専門技能である」と発信する大きな転機となるはずである。

また、この動きが若い世代にとって大きな励みになると考えている。介護を志す若者や現在現場で働く人たちが、自分の仕事に誇りをもち、「もっと技を磨きたい」「もっと成長したい」と思える機会が増えることは、現場全体の質の向上にもつながっていく。さらに、日本の介護はていねいさと寄り添いの文化をもつ独自の強みがある。その価値が世界に伝われば、日本の介護のあり方が国際的評価を受け、世界に広がっていく可能性すらある。

今回のエキシビション実施は、その未来に向けた第一歩である。介護が多くの人の人生を支え、温かい時間をつくり出す尊い仕事であることを、社会全体で認め合える未来を願うとともに、介護職種の技能五輪参加が、その実現に向けた明るく力強い礎となることを期待している。